



「団結」 山田珠奈さん 48
(東京都大田区)

踊る直前に円陣を組み気合を入れる様子を、広角レンズで高い位置から撮影。作品に写る祭水連の団結力には毎年圧倒されるという。「優秀賞」に輝いた。



「友愛」 松原大地さん 30
(東京都杉並区)

踊りの最中、年少者を笑顔で気遣うお兄ちゃん。ストロボ光を入れ、ほほえましい表情が分かる一枚になった。「優秀賞」に輝いた。



「19時59分!」 野々村幸生さん 46
(東京都目黒区)

カメラから離れたストロボを下から発光させ、熱気あふれる雰囲気伝わってくる。午後8時の終了1分前で踊りが最高潮に達する中、低速シャッターが功を奏し、躍動感に満ちた一枚となった。ストロボを持つ撮影助手は奥さんだという。踊り手同様、振り手も息がぴったりだ。「杉並区長賞」に輝いた。

「ヤットサー」撮った

JR高円寺駅周辺(東京都杉並区)に約100万人の観客を集めるイベントだけに、スマートフォンなどで手軽に熱狂を収める観客は多い。一方で応募作品は、高性能の一眼レフカメラや明るいレンズなど機材にこだわった、手間もかけた秀作が多く、審査は絞り込みに苦労した。

阿波おどりの撮影は周到な場所取りや機材の選定、狙いなどが重要だ。本紙カメラマンも会場カメラを構えるのが容易ではない。動きは激しく、夕方以降は光も少ない。苦勞して取れた受賞作品に共感を覚える。

受賞作品は10月29日(月)11月2日(金)、東京都杉並区役所の2階区民ギャラリーで、11月6日(火)13日(火)には、JR高円寺駅南口の壁面ギャラリーで展示される。阿波おどりと写真展の主催は、NPO法人東京高円寺阿波おどり振興協会。

高円寺阿波おどり写真展

東京の夏の風物詩として年々盛り上がりを見せる「第62回東京高円寺阿波おどり」(8月25、26日、読売新聞社など後援)。この熱気を捉えた「東京高円寺阿波おどりフォトコンテスト」には例年以上に秀作が集まり、9月末の審査で20点の受賞作品が決まった。踊り手の迫力、生き生きとした表情をご覧ください。(写真部 米田育広)



「果てぬ情熱」 *入選
早川伸夫さん 38
(東京都杉並区)



「女踊りVS男踊り」 *入選
櫻戸征治さん 74
(東京都国立市)



「1枚の応援」 *入選
村中たかふみさん 42 (東京都中野区)



「凜と」
石井慎一さん 33
(横浜市)

85mmレンズで絞りを開放に設定。柔らかいボケが中心の女の子を浮かび上がらせ、絶妙な遠近感を生み出した。7月にカメラを買い本格的に撮り始めたという。歯科技工士という職業柄、機材への興味は膨らむ一方で、写真の知識はすでにベテランの域だ。「東京高円寺阿波おどり振興協会理事賞」に輝いた。

*その他の入選者(敬称略) 「熱気、ほとばしる」谷畑昌昭(東京都墨田区)、「ホッと一息」小川拓馬(同足立区)、「魂の叫び」河野喜一(同大田区)、「キラリ」と熱視線」安彦典子(同杉並区)、「やっばり踊りはやめられぬ」荒張拓紀(同杉並区)、「のどがかわいた」宮川和久(同板橋区)、「こっちにも目を向けて!」船孟進(同武蔵野市)、「炎夏に舞う」岩崎淳(同小金井市)、「そわか」三田和広(同東大和市)、「ラスト1分!」堀伊之(横浜市)、「鼓動」野村壮一(川崎市)、「美人猫(ぞろ)い」奥野雄一(相模原市)、「夏の町に響く音」伊藤大樹(埼玉県和光市)